

# 北欧でこれからの医療と教育を考える スウェーデン(ストックホルム, ウプサラ), フランス(パリ) 2018/2/12(Mon) ~ 2018/2/25(Sun)

吉田達見 (健康科学コース4年)

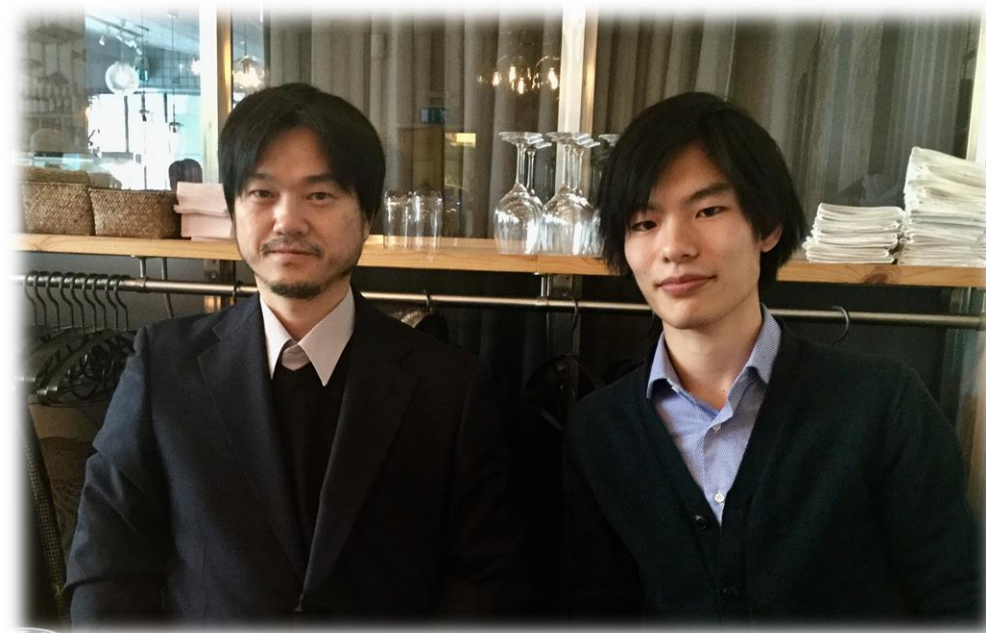
## 渡航先での活動内容



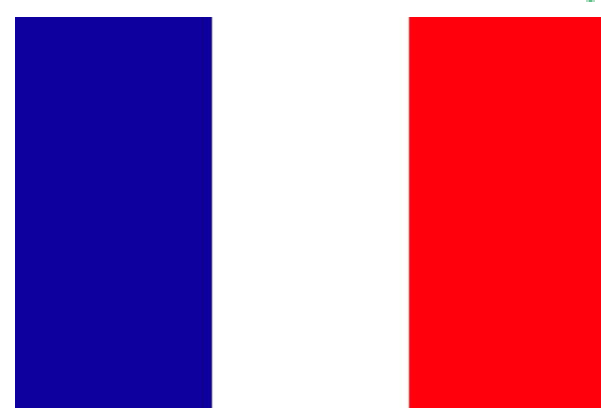
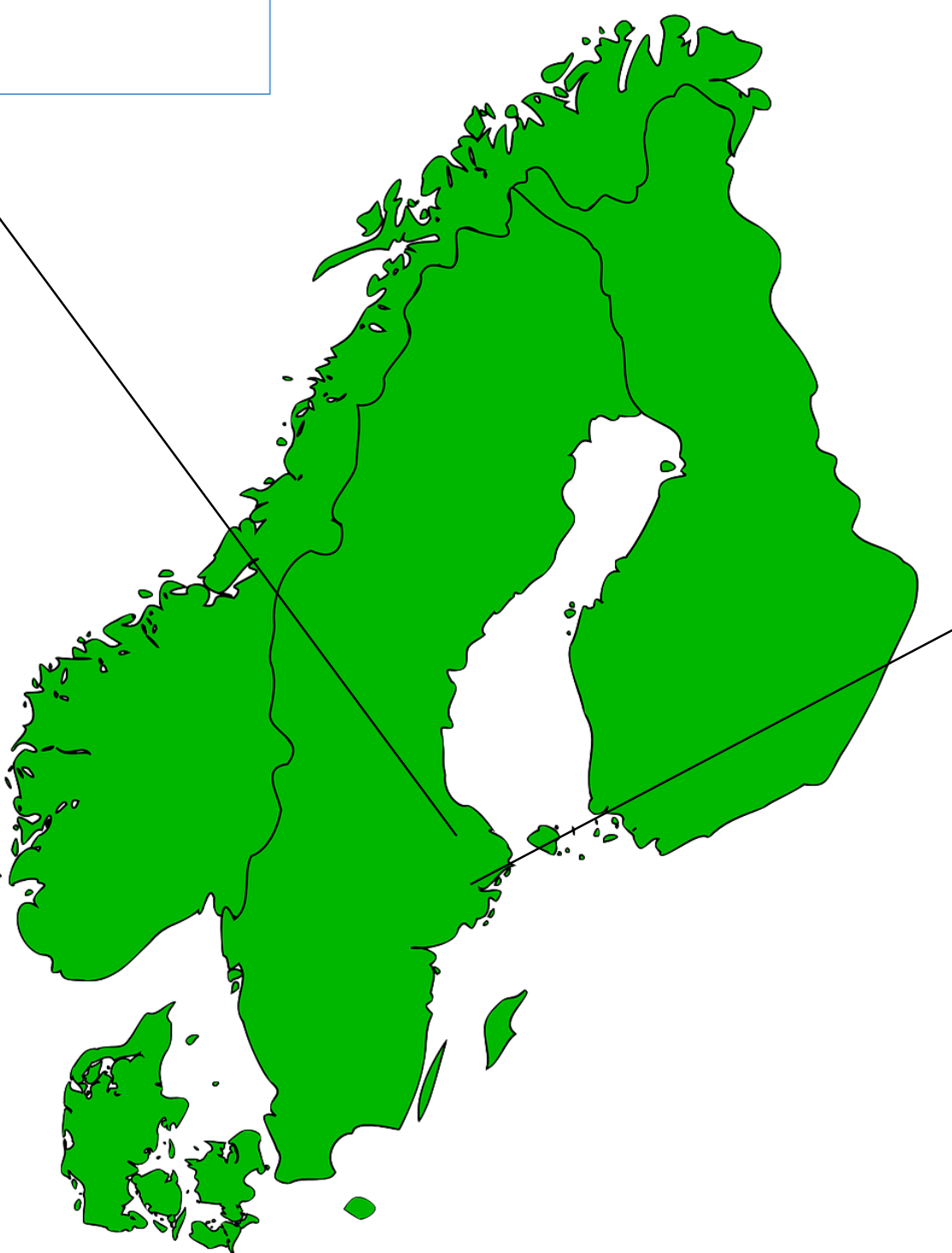
Uppsala

**Uppsala**

- Ulrik Kihlbom氏を訪問  
(ウプサラ大学, Centre for Research and Ethics and Bioethics)



山本慎治先生  
(ウプサラ大学移植外科)



国際シンポジウム  
"Education for Diversity"

### Stockholm

- Gert Helgesson氏を訪問  
(カロリンスカ研究所, Stockholm Centre for Healthcare Ethics)
- Greg Bogнар氏を訪問  
(ストックホルム大学, Stockholm Centre for Healthcare Ethics)
- 山本慎治氏、盛永真希氏を訪問  
(ウプサラ大学医師、カロリンスカ研究所医学生)
- 授業聴講  
『Medical Ethics』(ストックホルム大学)
- セミナー聴講  
『Health Factor in Environment』(カロリンスカ研究所)
- シンポジウム参加  
"Social Inequalities in Ageing Conference"
- シンポジウム参加  
"Education for Diversity"
- 現地小学校 Byleskolan見学

**Paris**

- UNESCO本部訪問
- OECD本部訪問



UNESCO

## 目的を達成できたか

- 目的 1 : 北欧の医療・教育について学ぶ  
現地の研究者や生活者、施設訪問等を通じて、北欧の考え方について実感することができた。特に、自立に関する考え方の違いや医療財源の性質を考えることの重要性を感じた。
- 目的 2 : 人脈の形成  
医療倫理の研究者や教育分野の人など、多様な人々と交流することができた。今後も親交を深め、将来の基盤としたい。

## 目的以外に学んだ点、反省点

- 目的以外に学んだ点  
研修に同行者がいることは、切磋琢磨できることや互いに助け合える点など、利点が多いことがわかった。今後同様の研修を企画する際は、他学生との協力も積極的に視野に入れていきたい。
- 反省点  
研修計画の遅れや卒業論文などとの兼ね合いにより、準備不足となってしまった。また訪問先が複数であったため、一つずつに割ける準備時間が少なくなってしまった。



## 将来の進路決定へどう影響したか

- 医療資源分配や家族の倫理など、新しい学問分野への関心が生まれた。今後サマースクールへの参加や研究実施を検討している。
- 国際組織で働くことのビジョンが以前より明確になった。

## グローバルな視点とは何か

社会の中の物事を相対的に捉え、その意味やあり方を時間的・空間的文脈の中で考えようとする視点。例えば医療保険制度などは、どの文脈から見るかによって意味合いが全く異なってくる。

## 後輩へのアドバイス

- 計画時期について  
特に4年生が渡航を計画する場合は、可能な限り早く計画・準備を始めつつ、渡航時期は慎重に決定した方が良い。卒業論文や進学準備・就職活動は想定以上に忙しい。
- 研修の内容について  
複数の目的や訪問先があるプランはなるべく避けた方が良い。
- 研修参加人数について  
できれば少人数(2-3人)で行くことを勧める。交渉や情報収集、現地での訪問等での負担が減り、さらなる成果が見込める。

## 研修支援制度に望むこと

より柔軟で多様な研修が増えることを期待している。研修中に教育学部主催のプログラムへ参加したが、そこで得られた経験は新しい視点を与えてくれた。医療・健康科学に必ずしも直結しないような分野にも発展していくことを願う。